

水稲の今後の管理について

◎水管理について

生育期に応じた水管理を行い品質・収量の向上を目指しましょう！

生育時期	幼穂形成期	穂ばらみ期～出穂開花期	乳熟期～糊熟期
水管理	間断灌水 3日湛水・2日落水	3～5cmの湛水 ※連続5日以上は行わない	間断灌水 3日湛水・2日落水

- ・落水は収穫の7～10日前（湿田は少し早く）を目安に行いましょう。
- ・早期落水は未熟米、乳白米などの原因となります。

◎台風対策について

台風による被害には、茎葉の折損や裂傷、粃すれ、脱粒、倒伏などがあります。

～台風前の対策～

台風時は稲の蒸発散が盛んになり、吸水量も多くなるので、台風情報などに注意し、早めに3～5cmの深水湛水を行いましょう。

※ただし、5日間以上の連続湛水は行わないでください。

～台風後の対策～

台風通過後は白葉枯病、穂いもち、紋枯病、トビイロウンカが多発するので、防除を徹底しましょう。また、冠水した場合は新しい水に入れ替えましょう！

◎いもち病について

いもち病は、雨や曇りが続き、日照不足・高温多湿の条件で発生しやすくなります。

初発生時に防除を行えるよう、圃場を見てまわり、早期防除を行いましょう。

薬剤名	適用病害虫名	使用時期	10aあたり 使用液量	希釈倍率
ブラシンバリダフロアブル	いもち病 紋枯病 ごま葉枯病	収穫14日前まで	60～150L	1000倍

※使用量・時期の確認を行い散布をしましょう。



裏面へ

大豆の中間管理について

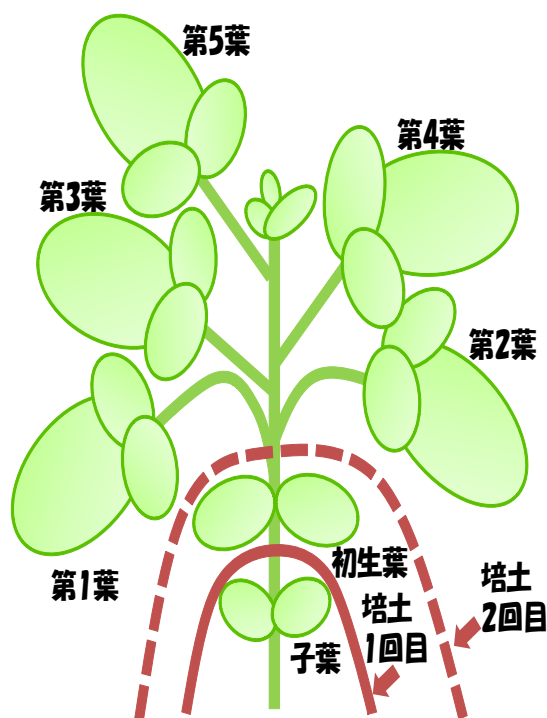
◎中耕培土について

中耕培土には雑草防除、湿害防止、倒伏軽減などの効果があります。適期に**2回**実施しましょう！

中耕培土の基準

回数	時期	培土の高さ
1回目	第2～3本葉展開時期 (播種後20日頃)	子葉が埋まる程度
2回目	第5葉展開から開花期 (播種後30日頃)	初生葉が埋まる程度

培土が遅れると、茎葉や根を傷付け生育が停滞するので、開花期までに実施しましょう。但し、過乾燥時に実施すると乾燥害を助長するので天候を確認してから行いましょう。



◎雑草対策について

初期除草剤や中耕培土を行っても生育中の雑草を抑制できない場合は、生育期除草剤の使用を検討しましょう。

生育期除草剤

薬剤名	適用雑草	使用時期	10aあたり 使用量	10aあたり 散布液量	使用回数 及び注意事項
ワンサイドP 乳剤	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	収穫60日前まで (イネ科雑草3～5葉期)	75～100mL	100L	1回
ポルト フロアブル		収穫30日前まで (イネ科雑草3～10葉期)	200～300mL		
大豆バサグラン 液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	大豆の2葉期～開花期前 但し収穫45日前まで (雑草生育初期～6葉期)	100～150mL	100L	1回 (畦間雑草茎葉散布)
		大豆の生育期 但し収穫45日前まで (雑草生育初期～6葉期)	300～500mL		

※薬剤ごとに適用葉齢、使用量・時期が異なるので、ラベル等をよく読み使用しましょう。

◎ハスモンヨトウについて

白変葉を発見した時は、白変葉を圃場内から取り除いた後に薬剤を散布しましょう。

薬剤名	使用時期	希釈倍数	10aあたり散布液量
プレバソンフロアブル5	収穫7日前まで	4000倍	100～300L
フェニックス顆粒水和剤	収穫7日前まで	2000倍	100～300L

※ラベル等をよく読み使用しましょう。

～農作業事故に注意しましょう～

農作業はあわてず、あせらず行い、安全確認を徹底し事故に注意しましょう。